

コラム

3. ロータリーとは？

2) 手続き要覧の変遷

前稿のコラム「3. ロータリーとは？（1）」では、我々ロータリアンが“ロータリー”という言葉が普段どういう意味で使っているのかを振り返りながら、「人にロータリーをどのように説明すればよいか」ということについて述べました。

実は、“ロータリー”の説明については、手続き要覧の「用語解説」にも記されています。ところが、ここ最近、その説明は短期間のうちに変遷しているのです。ロータリアンがバイブルのように扱っている手続き要覧で、重要な“ロータリー”の説明がコロコロ変わるといのは理解に苦しみます。一体、誰がどういう議論や検討の上で、或いは、どういう意図から説明を変えているのでしょうか。実に不可解です。

例えば、2001年と2004年版の手続き要覧にある「ロータリー用語語彙（Glossary - Words and Phrases Used by Rotary）」には、ロータリーは「ロータリークラブとロータリアンによって構成される組織、クラブとロータリアンを指導する原理、慣行および慣例、そしてクラブとロータリアンが達成を期する目的および綱領を示す言葉として用いられる」とあります。

しかし、2007年版の手続き要覧「重要なロータリー用語集（Glossary of Key Rotary Terms）」と2010年版の手続き要覧「重要なロータリー語彙（Glossary of Key Rotary Terms）」には、ロータリーは「すべてのクラブおよびロータリアンを含む連合体としての国際ロータリーと、組織の理想や原理を示す名称」とあるのです。

ところが、2013年版の手続き要覧には、なぜか「用語解説」の項目そのものが一切なくなり、“ロータリー”の解説としては、第4章「国際ロータリー」の項目に「ロータリーという言葉がそれだけで使う場合、通常、国際ロータリーとしての組織全体を指す」とあるだけです。

< 手続き要覧における「ロータリー」の用語解説の変遷 >

1) 2001年版、2004年版

「ロータリークラブとロータリアンによって構成される組織、クラブとロータリアンを指導する原理、慣行および慣例、そしてクラブとロータリアンが達成を期する目的および綱領を示す言葉として用いられる。」

2) 2007年版、2010年版

「すべてのクラブおよびロータリアンを含む連合体としての国際ロータリーと、組織の理想や原理を示す名称。」

3) 2013年版

「ロータリーという言葉がそれだけで使う場合、通常、国際ロータリーとしての組織全体を指す。」

上記をよく読んでみると、2001年と2004年にはなかった「国際ロータリー」という言葉が、2007年と2010年に登場します。そして2013年には、国際ロータリーという言葉だけが残り、他の言葉が消滅します。

つまり、2013年版の手続要覧にある“ロータリー”の解説には、ロータリーの思想や哲学、伝統などを示す言葉が一切なくなっているということです。しかも、それは日本人（田中作次氏）がRI会長（2012-2013年度）になってからの出来事でした。個人的には、残念としか言いようがありません。

<追加>

手続要覧の冒頭には、「RI組織規定ならびにロータリー章典を含むRIの方針の非公式な要約である」と明記されています。では、その非公式な(?)要約の引用元であるロータリー章典を確認してみます。

<「ロータリー」の用語解説>

●2009～2016年 ロータリー章典

「ロータリーという言葉を手続きだけで使う場合、通常、国際ロータリーとしての組織全体を指す。また、この言葉は組織の理念や原則をも意味する。」

(1998年6月理事会決定348号)

●2013年 手続要覧

「ロータリーという言葉を手続きだけで使う場合、通常、国際ロータリーとしての組織全体を指す。」

「ロータリー」の用語解説としては、調査可能であった2009年版から2016年版までのどのロータリー章典にも、1998年6月の理事会で決定された文章が記載されていました。ところが、その文章の後半にある「また、この言葉は組織の理念や原則をも意味する」という記載が、2013年版の手続要覧では省略されているのです。恣意的な作業なのかどうかは不明ですが、いずれにしても次に発行される2016年版の手続要覧を注視したいと思います。

(2014年10月1日 初稿 2016年3月1日 最終改訂 文責：鈴木一作)